

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター安食		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日 ～ 令和8年1月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57 (回答者数)	34
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日 ～ 令和8年1月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子療育プログラムの充実と単独通園グループでの取り組みを必要な段階を考えて実施している。	・運動、音楽、感覚など様々なテーマで日々の集団療育を計画。 ・保護者へ、プログラムの目的や取り組み方を直接伝える。 ・保護者が、お子さんのことを理解できる場面づくりと助言。	・職員のスキルアップを目指し研修を行い、専門的視点からの助言や対応をする力を身につける。
2	・専門職による個別療育の実施と、集団療育との連携	・言語聴覚士との連携を取り、個々のお子さんの言語発達段階を把握して、必要な関りを行う。 （カードでのコミュニケーション等） ・作業療法士、理学療法士からの助言により運動面の発達に繋がる遊びや療育を検討する	・職員間の情報共有と取り組みの検討を続ける。
3	・室内の設備の充実	・感覚統合器具の充実と取り組みやすい工夫 ・ペクス、TEACCHを取り入れた視覚支援を取り入れている ・音楽活動を広げるため様々な楽器を取り入れている	・それぞれの設備の活かし方を職員で共有する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門職による個別療育の頻度	・契約者数の増加に伴い調整が難しい	・集団の中でこれまで以上に、個々の課題の積み重ねができるプログラムを考える。
2	・保護者同士の交流の不足	・保護者間での交流の場所は確保できているが、なかなか活用できない	・活用しやすくなるために場所だけではなく、集まる意味を持てるようにしていく。
3			